

### 3. 八代市の子育て当事者・子育て支援者



八代市でノーバディーズパーフェクトの講習を同期で受けた子育て当事者のグループ、及びそのグループをはじめつどいの広場などに関わる子育て支援者。

講習終了後も、サークル的な活動を続けており、互いの支えになっている。

とくに、仲間づくりの大事さと、仕事と子育てとの両立が話題となった。

#### 参加者のプロフィール（本人記入を補足）

番号	年齢	子育ての経験	子育て支援への関わり
1	30歳代前半	男2人（小3、年長） 女1人（1才）	結婚時は別居。そして同居、また別居、同居と繰り返している。 子どもが1歳前後までは休職して、その後仕事に就き自立したい。 支援センターやノーバディーズパーフェクト、子育て講座への参加。
2	40歳代後半	高2、中2男児の母。 子育てで思いどおりにならなくて、つまづいた経験をもとに楽しくみんなで子育てを広げたいという日々を続けている。	子育てサークル歴11年。 地域で子育て情報を発信し、子育てサポートづくりを実践中。 八代のノーバディーズパーフェクト、ファシリテーター。
3	30歳代前半	息子1人（2歳4ヶ月）	ノーバディーズパーフェクトへ参加（同期のグループ名フラワー）。 週1回ほどの一時保育を利用（実家が遠い為とても助かる）。 子育て講座等への参加。つどいの広場“すくすく”や子育て支援センターの利用。
4	30歳代後半	保育園児（5歳、2歳）	仕事をしながら子育てしている。
5	20歳代後半	実家が鹿児島なので親の援助がある中で子育てをしている友人を“いいなあ”と思っている。 1歳5ヶ月の娘。次は男の子が欲しい。 周りに友人がいない中での子育てに不安があった。	ノーバディーズパーフェクトに参加。 図書館のおはなし会に参加。一時保育の利用。子育て支援センターやつどいの広場“すくすく”を利用。

(主な意見・アイデア等)

●母親が仕事をしたい気持ち

- ・ 今日参加のメンバーは、出産・育児で仕事をやめるまでは、教員、保育士など専門職で働いていたメンバー。仕事をしていないと社会から孤立していく不安がある。仕事をしていたときの自分の存在感が失われていく感じ。
- ・ 仕事は自分と社会（世間）とをつなぐ窓口。

スムーズな、子育て・仕事の切り替えを！

●できれば出産しても仕事をやめないで済むこと

- ・ 専門職は一度仕事を離れると、仕事のレベルや内容についていきにくく復帰できにくい。できれば、やめずにフレックスタイムなどで働けるといい。ワークシェアリングなども考えられる。
- ・ 妊娠や出産したら仕事をやめるのが前提になっている。職場で働き続ける環境づくりは簡単にはいかないが、少しでも働きかけてみる。最初からダメとあきらめずにアクションを起こす。それが、少しずつ変えていくことにつながる。

仕事と子育てとの緩やかな両立

●仕事と子育てとの切り替え

- ・ 出産などで仕事をやめ、育児が一段落したらまた仕事。そして、次の出産・育児で仕事をやめ、その後、また仕事に復帰などの切り替えができるといい。
- ・ それができないと、育児ストレス、仕事ストレスになる。

●ハローワークでの子育て支援

- ・ 託児とまではいかななくても、キッズルームみたいなコーナーがあるといい。ちょっと子どもを遊ばせながら、端末の検索もできる。熊本市内のあるところではそれが設けてある。

●望まれるのは仕事と子育てとの緩やかな両立

- ・ 子どもが1歳になったので、保育園に入園させ仕事に就いたが、子どもの病気の繰り返しで、2ヶ月で退職した。
- ・ 重要なのは子育てと仕事との両立できる環境づくり。それを行政の福祉サービスや、地域での組み立てが欲しい。

### ●一時預かりなどの重要さ

- ・八代市では求職中であっても、保育園に空きがあれば、3か月間の期限付きで預けられる。また、その間仕事が見つからなかったら延長もできる。
- ・仕事をしていると一時保育は、上の子の行事のときなど助かる。
- ・仕事をこれからしようとする就職活動でも、一時保育は助かる。ファミリーサポートセンターは時間で幾ら、一時預かりだと、1日や午前・午後の料金で済む。また、病児・病後児保育は必要。

### ●2人目ができない

- ・欲しいけど2人目ができないという人が多い。そのサポートは必要。これが本当の相談になる。このような話ができるような関係づくりが、まず必要。

### ●本当の相談（仲間の大切さ）

- ・大事なのは、とにかく話を聞くこと、話せる場や相手がいること。
- ・「ウンウン～、そうなのよね！～あるあるそんなこと」と耳を傾けてもらえること（傾聴）が大事。
- ・それと、ちょっと先輩ママの話が聞けること。
- ・夫の両親と同居しており、親との関係で悩みがあっても、夫は、真剣に関わってくれない。遠方から八代に嫁いで来ており、友人がいなかった。ノーバディーズパーフェクトの講習を一緒に受けたこの仲間が支えになってくれている。そうでなかったら、夫婦喧嘩をしたとき、とっくに実家に帰っていた。

仲間が支えになってくれる

### ●つなぎづくり（質の高いフレンド）

- ・一人で不安な妊娠中や子育ての時、周りに話せる人がいることが大事。子育て支援センターもちょっと敷居が高い。支援センターで子どもの年齢別の行事は、同年齢の母親と知り合いになれる良さはあるが、子どもが2人いると参加しにくい。
- ・出産前からの仲間づくりが必要で、両親学級などで知り合い、そして子育て支援センターにつなぐ。
- ・県外から来た人には友人・知人が少ない。そのとき県人会のつながりなどは、知り合いができるきっかけとして効果がある。
- ・県人会は、同郷というだけで話が打ち解ける。転勤の人の多いところはこの関係を活用できるのでは！

●生きた情報

- ・一般的に子育て情報が必要といっても、妊娠したとき、出産期や仕事をしようという、それぞれの時にタイムリーな情報でないと伝わらない。
- ・とくに大事なものは、身近な地元の情報。確実なのは口コミでの情報が一番。
- ・一般的な情報ではなく、その人がその時に必要としている情報が伝わるのが大事。情報を噛み砕いて飲み込めるようにする「情報コーディネーター」みたいな人や情報交換の場が必要。そして、情報を伝えるだけでなく「こうしたらどうですか」といったアドバイスをする「情報プランナー」、支援センターやつどいの広場が、そのような役割を發揮していく。そして、センターやつどいの広場にきた人が口コミで伝えていく。

子育て情報コーディネーター

